

巻 頭 言

環境デザイン学科は、本年より名称変更し、生活環境学科という工学系の名称から、デザインという名称により芸術系のイメージを付加、両者を表象させるべく新しくスタートさせました。既に教育内容は、建築インテリア・プロダクト・服飾マネージメントの各コースとも、機能・構造・素材・計画などの工学系の研究と教育にあわせ、設計・制作など芸術性が求められるデザインの実践と教育にも力をそそいできました。その両方の実態を正確に表現しようと学科名称の変更を行ったものです。

一方、芸術性の求められるデザインは、個性や独特の考え方、デザインプレゼンテーション技能などが求められ、すべての人がデザイナーとなれるとも言えません。逆に、デザインやデザイナーをフラットに理解し、一定程度のデザイン技能を習得した上で、総合的に様々なデザイナーやスタッフを使いこなすプロデューサーを志向する人々も多くなってきました。このような志向の方に向け、本年からデザインプロデュースコースを新設いたしました。

今回の環境デザイン学科紀要では、厳正な審査の上で採用した4つの研究論文と2つの〔デザインノート〕を掲載しております。「発光ダイオード（LED）の照明技術に関する実験研究」は上記のカテゴリーとしては最も工学系に近い研究で、「いくつかのアジアの都市における浮遊粒子状物質（SPM）の現状」「デジタルオーディオプレーヤの操作性に関する基礎的研究」は、工学的な解析を基礎に社会的問題や機能的な問題を解明しようとする研究です。「ウズベキスタンのイスラム都市の歩行者空間」は、優れた空間のデータを集積しデザインの際の資料とする研究であり、「フォーリー6556と1/1ワークショップについて」と「パブリックスペースに関するフィールドワーク報告」はデザインの実践を報告する〔デザインノート〕です。また、「平成20年度 卒業論文・設計・制作題目一覧」を合わせて掲載し、本学科の多くの先生と学生の活動の概要を紹介いたします。

学科紀要は毎年発行する刊行物で、バックナンバーは生活環境学科紀要、本号からは環境デザイン学科紀要として発行いたします。本紀要をさらに充実させてまいりたいと思います。ぜひ、皆様にもご活用いただけますようお願い申し上げます。

（環境デザイン学科長 友田博通）